

京都帝國大學法學科大學

經濟論叢

第五卷 第三號

大正六年九月一日發行

論說

同盟罷工と和解及仲裁制度(一)……………法學士 河田 嗣郎

所得稅ニ於ケル所得ノ意義(二)……………法學博士 神戶 正雄

露西亞主義……………米田 庄太郎

飛脚ノ變遷(三)迄……………法學士 本庄 榮治郎

時事問題

戰後^{ニ於ケル}軍國主義ト民主主義……………法學博士 戸田 海市

雜錄

あだむ・すみす傳拾遺……………法學博士 河上 肇

獨逸ノ植民的發展ノ起源……………山本 美越乃

露國ノ定期刊行物ニ就テ(一)……………文學士 高 倉 輝

ゆこ・すけらう民族運動(二)迄……………米田 庄太郎

經濟漫錄(三)……………瀧 本 誠一

しゅもーらゐノ戰後ノ獨逸觀……………法學士 櫛田 民藏

米國ニ於ケル婦人ノ職業……………法學博士 河上 肇

臺灣^{ニ於ケル}死亡率及疾病統計……………文學博士 内田 銀藏

ゆこ、すらぐ民族運動（二）完

米田庄太郎

(四)

今ゆで、すらぐ民族運動ノ指導者ノ論ズル處
ニヨレバ、せるぶ人、くろあつ人及ビすらぐえ
ぬ人ハ、始メかるばつ山地方及ビ南部露西亞地

方ニ共住セシモノニシテ、民族大移住運動ニヨリテ彼等ノ現住地域ニ南下シタノデアル。其ノ移住運動ハ紀元後第五世紀ノ半頃カラ第七世紀ノ半頃マデ連續的ニ行ハレタガ、彼等ハマダ共同的政治組織ヲ有スルマデニ發達シテ居ラナカツタカラ、其ノ移住地域ニ殘存セル異民族の要素ヲ同化シ、吸合シツツ、ばるかん半島ノ諸地方ニ散布シ、而シテ其處此處ニ小國家ヲ組織シタノデアル。併シ始メヨリ近隣ノ諸民族ニ對スル關係上、大體ニ於テ三分派ニ分レル傾向ヲ表ハシテ居ツタ。彼等ノ占有地域ノ西北部地方ニ於テハ主トシテ日耳曼民族ノ侵略ヲ防ク必要ニ迫マラレテ、するがえぬ國家カ組織セラレ、中央部地方ニ於テハゲえぬ人及ビまぎやる人ト鬭爭スル必要上、くろあつ國家カ組織セラレ而シテ東部地方ニ於テハびざんすヨリ來ル始メハ希臘人、後ニハおつとまぬ人ノ侵略ヲ擊退スル必要上、せるぶ國家ガ建設サレタ。此クノ如ク外敵ニ對スル關係上カラシテ、ゆゑ、すうが民族ハ自然ニ三分派ニ分レテ、夫レ夫レ獨立ナ

ル國家ヲ組織スルコトニナツタガ、併シ彼等ハ決シテ三種ノ異民族トナツタノデハナクシテ、同一民族ガ段々ニ發達シテ、政治的統一ヲ實現スルニ至ル以前ノ階段ニ於ケル、一時的ナル又地方的ナル分化ヲナセルモノニ外ナラス。歐洲ノ何レノ民族モ、段々ニ發達シテ遂ニ政治的統一ヲ實現スルニ至レル以前ノ階段ニアリテハ、夫レ夫レ異稱ヲ有スル幾多ノ部分、即チ種々ナル名稱ヲ有スル種族ニ分化シテ居ツタ。而シテ其ノ政治的統一ヲ實現スルニ至ツテ、始メテ其等ノ種族の諸名稱ハ消失シテ、單一ナル民族の名稱ヲ以テ知ラルルコトトナツタノデアル。ゆゑ、すうが民族ノ發達ニ於テモ本來同一ノ過程ガ行ハレテ居ル。而シテ今日モ彼等ガ尙ホ同一ノ政治的組織ノ下ニ團結スルニ至ラズ、其ノ民族の統一ヲ政治的ニ實現シ得ナイノハ、是レ彼等本來ノ民族の統一ノ傾向ヲ麻痺セシメ、彼等ノ政治的統一ヲ妨害スル異民族ガ、彼等ヲ支配シ、彼等ノ上ニ強キ壓迫ヲ加ヘテ居ルカラデアル、是レゆゑ、すうが民族ガ常ニ其ノ政治的統

一ヲ實現セントテ、奮闘シツツアルニ係ラズ、
今尙ホ其ノ目的ヲ達スルヲ得ザル所以デア
。而シテ近來ゆで、すらが民族運動が益々強マル
ニツレテ、澳國政府が之レニ加フル壓迫束縛モ
亦益々強マツテ來タ。ゆで、すらが民族が如何
ニ澳國政府ノ迫害ヲ受ケツ、アルカハ、つあぐ
れぶノ事件、はんこらいぐ事件、ふりーどゆん
ぐ事件、學生問題、ばりやるかノ事件等ヲ見レ
バ明白デアル。⁽¹⁾

併シゆで、すらが民族運動ノ指導者ガ、せる
ぶ人トくろあつ人トするぐえぬ人トハ、特ニ親
密ナル關係ヲ有シテ、ゆで、すらが民族ト稱セラ
ルル特別ナル一民族ヲナスモノト見ル現實ナル
事實の根據ハ如何ナルモノデアアルカト云フニ、
彼等ノ論ズル處ニヨレバ、宗教ニ於テハ其等ノ
三人民ハ一致シテ居ラナイ。せるぶ人ノ大多數
ハ希臘正統教ヲ奉ジテ居ルガ、くろあつ人及ビ
するぐえぬ人ハ羅馬加特利教ヲ奉ジテ居ル。併
シ此ノ宗教上ノ差異ハ別ニ重要視スルニ足ラ
ヌ。ト云フノハ、彼等ハ一ノ獨立特異ナル民族

ヲ特質附ケル一切ノ事柄即チ言語ニ於テ、民族
的藝術ニ於テ、民族の傳説ニ於テ、又民族の風
俗慣習ニ於テ、ツマリー民族ノ民族のにねるぎ
ーヲ表現スル總テノ根本の形態ニ於テ、親密ニ
結合シテ居ルカラデアアル。ゆで、すらが民族ノ
使用スル言語ノ差異ハ、只方言のナル差異ニ過
ギズシテ、本來同一ノ言語デアアルコトハ、少シ
ク彼等ノ言語ヲ研究スレバ、直チニ理解サレ
ル。同一ノ根本の一致ハ、藝術ニ就テ見ルモ、
傳説ニ就テ見ルモ、風俗慣習ニ就テ見ルモ、直
チニ發見サレルノデアアル。要スルニ、ゆで、す
らが民族ハ總テ一ノ獨立ナル民族ヲ組織スル根
本の要素ニ於テ、根本のニ一致シテ居ルノデ、
吾人ハ何レカノ民族ヲ一ノ獨立ナル民族ト認ム
ルト全然同一ノ理由ニヨリテ、ゆで、すらが民
族ヲ一ノ獨立ナル民族ト認ムルコトガ出來、又
認メザルヲ得アイノデアアル。⁽²⁾尙ホ佛國ノ學者ニ
シテゆで、すらが民族運動ニ厚キ同情ヲ有シ、
該運動ニ關スル著作ヲ公ニシテ居ル前巴里人類
學會長せるぐあん氏セびえる、づ、らにゆー氏

(1) Les persecutions des Yougo-Slaves. 1916.

(2) Hinkovic, Les Yougo-Slaves, leur passé, leur avenir. 1916. Bonnet. La question Yougo-Slave. Revue Internationale de Sociologie. Août-Septembre, 1916.

等モ、大體上同様ナル理由ヲ以テ、所謂ゆじ、すらぐ民族ノ民族的統一ヲ論議セント企デテ居ル。⁽¹⁾

併シせるぶ人トくろあつ人トするぐえぬ人トノ間ニ、果シテ民族的統一ガ存在スルヤ否ヤハ、尙ホ一ノ疑問デアルノデ、何人モ承認シテ居ル明確ナル事實デアルトハ云ヒ得ラレナイノデアル。其等ノ三人民ハ同一ノ民族ヲナスモノト認メラレナイホド、重大ナル差異ガ彼等ノ間ニ存在スルト主張スルハ、決シテゆじ、すらぐ運動ヲ破壊セントスル澳大利ノ一派ノ學者ヤ政治家ニ限ラナイ。佛國ノ學者中ニモ之ヲ認メテ居ル人々ガアル。更ニ彼等ガ其ノ始源ヲ一ニスルモノ、即チ彼等ハ共同的始源ヨリ發達セルモノデアツタモ、少クモ現在ノ狀態ニ於テハ、彼等ノ間ニ宗教上及ヒ文化上重大ナル差異ガアツテ、彼等ノ政治的統一ハ望マシキモノデアツタモ、其ノ實現ノ甚ダ困難ナルヲ説ク人々モアル。其ノ一例トシテ、茲ニ巴里大學ノ露西亞文學講師おーまん氏ノ意見ノ一斑ヲ述ベテ置ク

ガ、同氏ハゆじ、すらぐ國家ノ建設ハ望マシキコトデアルト考ヘテ居ル。併シせるぶ人トくろあつ人トするぐえぬ人トノ間ニハ、民族の一致ノ感情ノ廣ク傳播シテ居ルニ係ラズ、重大ナル差異ガ存在シテ、彼等ヲ結合シテ一國家ヲ組織セントスルハ容易ナラザル事業デアルト考ヘ其ノ差異ニ就テ詳シク論ジテ居ル。同氏ノ見ル處ニヨレバ彼等ノ間ニ存在スル差異トシテ普通ニ認メラレテ居ル宗教上ノ反對ヨリモ更ニ一層深い差異ガアル。夫レハ歴史的文化及ビ教育ノ差異デアル。今だるまचीノくろあつ人ハ羅旬文明ニヨリテ訓育セラレ、かるにおる及ビくろあちノくろあつ人ハ封建的日耳曼的或ハまぎやる的影響ヲ受ケテ發達シテ居ルガ、之レニ反シテせるぶ人ハ、今日ニ至ルマデ、只びざんちす文明ノミヨリ知ラナイ。而シテ彼等ノ間ニ於テ舊貴族制度ノ廢滅セシ以來、彼等ハ甚ダ民主的ナ人民トナツテ居ル。更ニぼすにー及ビへるつえじぐいぬニ於テハ、頑強ナルものはめつと教徒ガ其ノ一中核ヲナシテ居ル。サレバ文化的宗教

(1) Chervin, Les Yougo-Slaves au point de vue Ethnique. 1916. Pierre de Lanux, La Yougoslavie. 1916

的ニ此ノ如ク相異ナレル諸要素ヲ結合シテ、一國家ヲ組織スルコトハ實ニ至難ノ業ト云ハネバナラス。⁽¹⁾

今若シホーマン氏ノ云フガ如キ文化的及ヒ宗教的差異ガ所謂ゆじ、すらが民族ノ三人民間ニ存在スルトスレバ、彼等ヲ以テ民族學上嚴密ニ同一民族ト認ムルコトハ甚ダ困難デアル。結局彼等ハ三種ノ相異ナレル民族ヲナスモノト認メネバナラナクナル。蓋シ今日民族學上、民族概念ヲ決定スル根本的要素ハ、文化的特性デアル、一層嚴密ニ云ヘハ文化的特性ニ於テ表現スル一定ノ根本的素質デアルト考ヘラレテ居ルカラデアル。併シホーマン氏ノ云フゆじ、すらが民族間ニ於ケル文化的差異ハ、果シテ夫レ夫レノ人民ノ根本的素質ニ基ツイテ發達セルモノデアルカ、又ハ同一ノ民族的素質ノ發達ノ上ニ及ボセル、外民族ノ文化ノ歴史的影響ニ基ツイテ、表現セル外部の差異ニ過ギナイノデアルカ。余ハ此問題ニ就テ斷乎タル解決ヲ下シ得ルダケ、マダゆじ、すらが民族ナルモノニ就テ深キ研究ヲ積

ンデ居ラナイカラ、茲ニ何トモ云フコトハ出來ナイ。トニカクゆじ、すらが民族運動の指導者ガ、せるぶ人くろあつ人及ヒするがえぬ人ノ間ニ存在スル民族的一致ヲ、外部ニ表ハレタル宗教的信仰ヤ文化的現象ニ於テ求メズ一層深キ民族の素質ニ於テ求メントシテ居ル。殊ニ彼等ノ重要視スルハ、ゆじ、すらが民族間ニ廣ク傳播シツツアル政治的統一ノ傾向、即チ政治的ニ一致團結セントスル傾向ノ現實ナルコトデアル。彼等ノ一人タルみれんこ、がえすにつち氏ハ左ノ如ク述ベテ居ル。「今ゆじ、すらが問題ヲ其ノ社會學的要素ニ還元セントスルニ當テ、余ハ先ヅ第一ニ、今日せるぶ人、くろあつ人及ヒするがえぬ人ノ間ニ於テ、吾人ノ認ムル統一の傾向ハ他ノ總テノ動機ヨリモ一層強キ民族の保存ノ本能ニヨリテ、最トモ自然的ニ又最トモ論理的ニ説明セラルルモノナルコトヲ述ブルハ、有益デアルト信ンズル。此ノ本能ハ吾人ノ民族ノ最トモ奥深キ層ニ於テ潑刺ニ働イテ居ルノデアル。吾人ノ祖先ハ加特利教徒トナリ、正教徒ト

(1) Haumant, La question Yougo-Slave. Revue Internationale de Sociologie. Août-Septembre 1916.

ナリ新教徒トナリ、否ナ回教徒トナル前ニ、すらがデアツタト同ジク今日或ハ寧ロ遼遠ナル昔ヨリ、吾人ノ民族の精神ハ、其等ノ統一の諸特性ヲ保持シタ。吾人ノ民諸ハ、實ニ總テノ機會ニ於テ、宗教的感情以上ニ民族的感情ノ強大ナルヲ歌フテ已マナイ。吾人ハ兄弟ハ其ノ宗教ノ如何ヲ問ハズ、親シキモノナルコトヤ、隣人ガ如何ニ十字ヲ切ルカハ重要デナクシテ、彼ノ血管ニ如何ナル血ガ流レテ居ルカガ重要デアルコトヲ常ニ經驗シテ居ルノデアル。基督教の生活ヲ十五世紀モ送ツタ後、尙ホ吾人カ此、如クデアルト云フノハ、驚ク可キコト、否ナ或意味デハ異端的ナコトデアルカモ知レナイ。而モ夫レハ吾人ノ看過ス可カラザル事實デアル。而シテ此ノ點ニ於テ吾人ノ民族の歌謠、田夫野人ハ吾人ノ大政治家更ニ大宗教家ト、全然一致シテ居ルコトハ、大ニ注意ス可キ事デアル。第十七世紀ニ於テばんすらがいすむノ最初ノ知力的唱道者ハ一人ノ加特利教ノ僧侶くりつゝにデアツタ。又つあぐれぶノゆゑ、すらが學院ヲ創設シ、何

人ヨリモ拔ンデテ吾人ノ民族の統一ノ發達ノ爲メニ力ヲ盡クシタルハ、加特利教會ノ一大僧正、同教會ノ誇リノ一デアル不滅ノところつすまいや一一大僧正デアツタ。支配スル爲メニ相爭ハシムルト云フ原則ノ上ニ立テラレタルはぶすぶるぐ家ノ政略ハ、吾人ノ民族ノ諸部分間ニ、永ラクノ間又組織的計畫のニ不和ノ種ヲ蒔イタ、而シテ外面のナ一時のナ功ヲ收メタ。爲メニ皮想のナ觀察者ハ吾人ハ到底一致團結シ得ナイモノト信ジタ。併シ吾人ノくろあち一及ヒするがえに一ノ兄弟ガ、せるび一ノ軍隊ニ入りテ戰場ニ流シタ血ハ、最トモ懷疑のナ、最トモ不信ナ人ノ眼サヘモ開イタト思フ⁽¹⁾。

余ハサキニモ述ベシ如ク、民族學上カラ考察シテ、せるぶ人、ぐろあつ人及ビするがえぬ人ガ、果シテゆゑ、すらが民族ト稱セラルル特別ナル一民族ヲナスダケ、共同的ナル民族の素質及ビ特性ヲ有スルモノナルヤ否ヤヲ、科學のニ決定シ得ルダケ深ク、マダ彼等ニ就テ研究ヲ積ンデ居ラナイ。隨フテ茲ニ彼等ハ民族學上、嚴密ニ

(1) Milenko Vesnitch, La question Syougo-Slave. Revue internationale de Sociologie. Aout-Septembre 1916.

一民族ヲナスモノデアルヤ否ヤヲ斷定スルコトハ出來ナイノデアルガ、トニカク今ヤ彼等ノ間ニ段々民族ノ一致ノ意識ガ傳播シツツアルハ、疑ハレナイ事實デアル。其ノ科學的根據ノ薄弱ナルノ故ヲ以テ、現實ニ發達シ、又活動シツツアルゆゑ、すらゞ民族意識ノ事實ヲ否定スルコトモ、亦其ノ社會的政治的影響ヲ無視スルコトモ出來ナイ。妄想、空想ガ歷史上重大ナル勢力ヲ振ヘル事實ハ、假令それる一派ノ人々ノ如ク、總テ歷史上ノ大運動ハ空想妄信ノ產物デアルト云フガ如キ極端ナル見解ヲ抱カザルモノモ、實際上之ヲ認メザルヲ得ナイ。サレバ假令ゆゑ、すらゞ民族運動ナルモノハ、一種ノ空想妄信ニ基ヅイテ、特別ナル事情ノ下デ、發達セシモノデアルトスルモ、其ノ益々發達シテ、今日ノ世界的大動亂ノ如キ古今未嘗有ノ大事件ノ直接の原因トナルガ如キ勢力ヲ有スルニ於テハ、吾人ハ決シテ之ヲ輕視スルコトハ出來ナイ。又戰後ノ講和會議ニ於テモ、ゆゑ、すらゞ問題ノ解決ニ對シテ、何等カノ策ヲ講ズルニ非ラズバ、歐

洲ノ平和ハ到底永續スルコトハ出來マイ。戰前ニ變ラズばるかん半島ハ常ニ歐洲ノ平和ヲ爆裂セシムル火藥製造處トナルデアラウ。併シゆゑ、すらゞ運動ノ目的ヲ實現セシムルコトハ、甚ダ困難ナ問題ニシテ、該運動者ハ恐クハ其ノ實際的困難ヲ十分ニ意識シテ居ラナイノデハアルマイカト疑ハレル程デアル。トニカク余ハ終リニ該運動ニ對スル歐洲諸強國ノ態度ノ一般ヲ、簡單ニ說述シテ置カウト思フ。

(五)

今ゆゑ、すらゞ民族運動ノ目的ガ、上ニ述ベシガ如キモノナレバ、澳匈國ガ極力之ヲ壓迫セント企ダテ居ルノハ、澳匈國ニトリテハ當然ナル方針デアルト云ハネバナラス。實ニゆゑ、すらゞ運動ハ澳匈國ノ瓦解ヲ目的トスルモノデアルトモ云ヒ得ラレルノデアル。更ニゆゑ、すらゞ運動ハばるかん半島ニ於ケル日耳曼民族ノ勢力ノ發展ヲ防止セントスル一種ノ反日耳曼民族の運動デアルカラ、獨逸ガ之ヲ嫌惡スルノモ亦當然デアル。而シテぶるがりあモ亦土耳其モ

共ニ該運動ヲ好マナイ理由ガアル。要スルニ今日ノ世界の大戦争ニ於ケル同盟側ノ諸國ハ、何レモゆゑ、すらぐ運動ニ反對スルモノデアル。然ラハ聯合側ノ諸國ハドウデアアルカト云フニ、此問題ニ就テハ聯合側ノ諸國ノ利害ハ、同盟側ノ諸國間ニ於ケルカ如クニ一致シテ居ラナイ。是レゆゑ、すらぐ運動ノ爲メニ甚ダ不利益ナル點ニシテ、假令今日ノ大戦争ガ聯合側ノ勝利ヲ以テ、終結ヲ告ゲルトシテモ、該運動ハ其ノ目的ヲ其儘ニ實現スルコトハ甚ダ困難デアラウト思ハレル。

先ツゆゑ、すらぐ運動ニ對スル佛國ノ利害ニ就テ考フルニ、佛國ハばるかん半島ニ於テ何等領土の野心ヲ抱イテ居ラナイカラ、直接該運動ト利害ノ衝突ヲ起サナイ。而シテ該運動ハ一種ノ反日耳曼の運動デアルカラ、佛國ニ於テ該運動ニ同情スル人々、又之ヲ援助スル人々ノ多キハ敢テ怪ムニ足ラヌ。是レ今日巴里カ該運動ノ中心トナツテ居ル主要ナル一原因デアラウト思フ。但シサキニモ述ベシ如ク、壓制サレテ居ル

民族ヲ解放スルト云フ、大革命以來ノ佛國ノ傳說的ナル人道的感情ガ、又與ツテ力アルコトモ疑ハレナイ。トニカク佛國自身ノミノ利害カラ見レバ、佛國ハ別ニ該運動 反對スル理由ハナク、而シテ其ノ反日耳曼の感情及ヒ人道的感情ノ上カラシテ、寧ロ之ヲ助ケル傾向ガアルノデアル。

次ニ英國トゆゑ、すらぐ運動トノ關係ヲ考ヘテ見ルニ、英國モ別ニばるかん半島ニ於テ領土の野心ヲ抱イテ居ルト思ハレナイカラ、直接該運動ト利害關係ヲ有シナイト思ハレル。而シテ該運動ハ一種ノ反日耳曼民族運動ニシテ、該民族ノ勢力ヲばるかん半島ヨリ驅逐セントスルモノデアルカラ、間接ニ獨逸ノ勢力ノ亞細亞ニ發展スルコトヲ妨止スルコトニナル。サレバ英國モ只自身ノ利害ノミカラ考フレバ、該運動ニ反對スル理由ハアルマイト思フ。否ナ寧ロ之ヲ援助スルガ、自國ノ利益デアラウト思ハレル。併シ英國人ハ佛國人ト氣風ヲ異ニシテ居ツテ、敢テ他民族ノ内事ニ干涉スルヲ好マナイ。是レ同

國ニ於テハ、佛國ニ於ケル如ク、該運動ニ對スル同情ガ、明白ニ表ハレテ居ラナイ所以デアラウト思フ。

次ニ露西亞トゆじ、すらぎ運動トノ關係ヲ考ヘテ見ルニ、該運動ハ本來日耳曼民族ニ對抗スルすらぎ民族ノ一運動デアルカラ、露西亞ハ之レニ對シテ深厚ナル同情ヲ有シ、且ツ直接間接ニ援助ヲ與ヘルデアラウト、何人モ推察スルノデアルガ、併シ實際ハソウデナイ様デアアル。上ニ引用セルばんね氏ノ報告中ニ、同氏ハ左ノ如ク述ベテ居ル。『諸君、奇妙ナ事ニハ、露西亞ハ此ノ新建設(ゆじ、すらぎ國)ニ對シテ、アマリ強キ熱心ヲ表ハシテ居ラナイ様ニ見ユルノデアアル。吾人ハ其ノ證據ヲ、佛國ノ新聞上ニ譯サレテ居ル露西亞ノ新聞ノ拔萃ニ於テ見ルコトガ出來ル。殊ニ近頃公ニサレタそのふ氏トノ會見錄ニ於テ之ヲ見ルコトガ出來ルノデアアル。右ノ會見錄中ニハ、種々ナル問題ニ關スル同氏ノ意見ガ傳ヘラレテ居ルガ、其ノ中ニ吾人ハ下ノ如キ言葉アルヲ見ル。即チ(あどりあちつく海ハ伊

太利ノ海デアラネハナラヌ。伊太利ハおどらんとて、うあるな、ぐえにす等ヲ有シテ居ルカラ、どリーすどヲモ有スルニ於テハ、完全ニあどりあちつく海ノ女王トナルデアラウ。抑々如何ナル理由ニヨリテ、同氏ハカカル意見ヲ述ベタノデアルカ。露西亞ハ或ル人ノ暗示セシ如ク、ばるかん半島ニ於テ、正統教的露西亞ニ對抗スル加特利教的すらぎ國家ノ建設サレルコトラ恐レルノデアルカ。或ハ又其ノ新國ヲ自國ノ一種保護國トシテ建設セントスルノデアルカ。其ノ理由ノ如何ヲ問ハズ、トニカク露西亞ノ態度ハ注意意可キモノデアアル。』併シ露西亞ノ右態度ハ、目下ノ大革命ノ結着如何ニヨリテ大ニ變動スルデアラウ。而シテ大體ニ於テ新政府ハゆじ、すらぎ運動ニ同情ヲ表スルデアアラウト思ハレルガ、而モ伊太利ニ對スル關係上全然其目的ヲ公認スル事ハ躊躇スルデアアラウトモ思ハレル。

以上述べ來リシ處ニヨリテモ察セラルル如ク、聯合國ノ方面ニ於ケルゆじ、すらぎ運動ノ大障害ハ伊太利ニアアルノデアアル。是レ該運動ノ目

的ハ、りたりあ、いゝれでんた運動ノ目的ト衝突
スル處ガアルカラデアル。サレバ近來佛國ニ於
テゆじ、すらが運動ガ同情者ヲ得テ活動スルノ
ヲ見テ伊太利ノ識者ハ不快ノ感ジヲ起シテ居ル
ト思ハレル。サキニモ述ベシ如ク、巴里社會學
會ガ昨年六月ノ例會ニ於テ、ゆじ、すらが問題ヲ
論究シタガ、其ノ際之レニ同情ヲ表スル意見ガ、
幾多ノ學者ニヨリテ述ベラレタノデアル。而シ
テ其ノ記事ガ萬國社會學評論八九月號ニ表ハル
ルヤ、伊太利ノ學者中ニハ、之レニ對スル抗議
的書簡ヲ同評論ニ送ツタ人モアル⁽¹⁾。又伊太利ノ
雜誌「しえんちヤ」ノ最近號ニ於テ、同國著名ノ
一社會學者ガ、ゆじ、すらが運動ノ論者ノ根據ト
スル歴史的事實及ヒ統計的事實ノ誤謬ヲ指摘シ
テ、其ノ論據ノ如何ニ薄弱ナルヤヲ示サント試
ミテ居ル⁽²⁾。茲ニとまろ氏ヤさざるにあん氏ノ
説ヲ詳シク紹介スル暇ハナイカラ、只さざるに
にあん氏ガゆじ、すらが主義ノ統計的誤謬ノ一
例トシテ擧ゲテ居ル事ダケヲ示シテ置ク。
今ゆじ、すらが運動ノ論者ノ主張スル處ニヨ

レバ、とりーすと、ごりついあ、ばれんつゝ、ほら
等ノ諸地方ニ於テモ、ゆじ、すらが民族ノ要素
ガ、其ノ人口ノ大部分ヲ占メ、隨フテ此等ノ諸
地方ハ當然ゆじ、すらが國ノ領土ニ屬ス可キモ
ノトナツテ居ル。然ルニ實際ニ就テ詳シク調査
シテ見ルト、此等ノ諸地方ニ於テハ、澳匈國政
府ガ切リニ伊太利人ニ壓迫ヲ加ヘ、之ヲ驅逐セ
ント企ダテ居ルニ係ラズ、其ノ主要ナル人口
要素ヲナスモノハ伊太利人デアツテ、ゆじ、す
らが人デナイ。是レ最トモ信憑サレ得ルモノト
認メラレテ居ル千九百年及ヒ千九百年ノ澳匈
國人口調査ニヨリテ、明ラカニ證明サレテ居ル
事實デアル。

		伊太利人		すらが人	
とりーすと		千九百年	七、〇〇	一六、〇〇	
ごりついあ		千九百年	六二、〇〇	三〇、〇〇	
ばれんつゝ		千九百年	六八、〇〇	二〇、〇〇	
ほら		千九百年	五一、〇〇	三七、〇〇	
ら		千九百年	七八、〇〇	二一、〇〇	
ら		千九百年	六八、〇〇	三一、〇〇	
ら		千九百年	五一、〇〇	四〇、〇〇	
ら		千九百年	四八、〇〇	四〇、〇〇	

- (1) Tomaro, Apropos de la question Yougo-Slave. Revue Internationale desociologie. Octobre 1916.
(2) Savorgnan, La Question Yougo-Slave. Scientia, I-IV. 1917.

サレバ民族主義ノ上カラ云へバ、此等ノ地方ハゆじ、すらぎ國ニ屬ス可キモノデナク、伊太利帝國ニ屬ス可キモノデアル。

さうおるにあん氏が、ゆじ、すらぎ運動論者ノ根據トスル統計的事實ノ誤謬ノ一例トシテ、擧ゲテ居ルコトハ、右ニ述ベシガ如キモノデアル。吾人ハ之レニヨリテゆじ、すらぎ運動トリたりあ、いゝれでんた運動トカ、如何ナル方面ニ於テ相衝突シ、又各々其ノ主張ノ論據トスル事實ハ如何ナルモノデアルカラ、大體上推察シ得ルノデアル。要スルニゆじ、すらぎ運動ハ伊太利ノ利益ト衝突スル處アルガ爲メニ、假令聯合側ノ他ノ諸國ガ之ヲ承認セントシテモ、伊太利ヲ憚リテ承認スルコトハ出來ナイノデアル。サレバゆじ、すらぎ民族運動ハ假令聯合側ノ勝利ヲ以テ大戦争ガ終結ヲ告ゲテモ、決シテ其ノ主張ノママニ其ノ目的ヲ實現スルコトハ出來マイ。其ノ伊太利ノ利益ト衝突スル方面ニ於テ、太ニ讓歩スルニ非ラズハ、恐クハ其ノ他ノ方面ニ於テモ實現スルコトハ出來マイ。此ノ點ハ該運動指

導者ノ大ニ注意ス可キモノデアルト思フ。併シ是レト同時ニ、其ノ伊太利ト衝突スル方面ニ於テ、全然伊太利ニ讓歩スルニ於テハ、ゆじ、すらぎ國ノ經濟的政治的勢力ハ大ニ削減サレルコトニナルカラ、是レハ又彼等ノ大ニ苦痛トスル處デアル。サレバ戦後ノ講和會議ニ於テゆじ、すらぎ民族問題ハ如何ニ解決サレルデアラウカ、余ハゆじ、すらぎ運動ガ今日ノ世界の大戦争ノ直接原因或ハ導火線トナツタコトヲ憶フテ、此ノ問題ガ戦後如何ニ解決サレルカハ、將來ニ於テモ亦大ニ意義アルコトト考へ、此ノ問題ニ少ナカラヌ興味ヲ感ジテ居ルノデアル。(完結)